

音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

【準備】

- ・柱は五、六、七、八弦のみに立て、五＝ミ、六＝ソ、七＝ラ、八＝シに調弦しておく。
- ・爪有り（親指）
- ・2人で1面

1. 指導内容

〔共通事項〕 音楽の縦と横との関係（カノンの重なり）と曲想

〔指導事項〕 (2) 器楽 ア、イ(ア)、ウ(ウ)

2. 単元名 : カノンの重なりを意識して《あめこんこん》を弾こう

3. 対象学年 : 小学校第4学年

4. 教材 : 《あめこんこん》わらべうた

5. 教材について

【音楽の背景】

《あめこんこん》は福島県のわらべうたである。雪国の子ども達は幼い頃から雪に親しんで生活している。初雪が降ると喜び、積もると雪合戦や雪だるまづくり等、雪でさまざまな遊びをして雪のある生活を楽しむ。それは、雪国ではない地域においても同様であり、子ども達にとって雪遊びは楽しいものである。そのような生活経験やそこに伴う感情を想起させることで、イメージ豊かに表現することが可能になると考える。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

カノンはイタリア語で「逃げる」という意味をもつ。同じ旋律を、出発点を変えて同時に演奏し、追いかけるような印象を与える演奏形式であり、ポリフォニーの一つの典型である。本単元では、《あめこんこん》の旋律を4拍ズレや2拍ズレのカノンで重ねることで、絶え間なく降り続ける雪や、一度にドサッと降る雪等、さまざまなイメージが生じることができると考える。そして、グループで表現したい雨や雪のイメージを実現するために、4拍ズレか2拍ズレのカノンを選択して演奏させ、そこでもったイメージを意識して《あめこんこん》をカノンでアンサンブルをする技能を身に付けさせたい。

6. 指導計画 : (全4時)

ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	○ペアで交代しながら、《あめこんこん》の音を探して弾く。 ○クラスで2パートに分かれ、4拍ズレと2拍ズレのカノンでそれぞれ重ねる。	1
		2
分 析	○カノンの重なりを知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	3
再経験	○カノンの重なりを意識して《あめこんこん》の表現を工夫する。	
評 価	○リレー奏で発表する。 ○カノンの重なりについてのアセスメントシートを記入する。	4

7. 単元目標・評価規準

評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	カノンの重なりについて理解し、イメージが伝わるように《あめこんこん》を弾く。	★①カノンの重なりを意識し、イメージが伝わるように演奏している。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・判断・表現	カノンの重なりについて知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 カノンの重なりを意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①カノンの重なりを知覚・感受してワークシートに記入している。 ②カノンの重なりを意識し、イメージが伝わるように表現を工夫している。 ★③カノンの重なりを意識し、イメージが伝わるように工夫したことをアセスメントシートに書いている。
主体的に学習に取り組む態度	カノンの重なりに関心をもち、意欲的に《あめこんこん》を弾く。	①旋律のみの演奏と何が違うかに注目して《あめこんこん》を聴いたり、演奏したりしている。 ★②カノンの重なりに関心をもって意欲的に箏の演奏に取り組んでいる。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

8. 展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経験	<p>○ペアで交代しながら、《あめこんこん》の音を探して弾く。 ○クラスで2パートに分かれ、カノンで重ねる。</p>		
<p>※事前に《あめこんこん》でオスティナートの学習をしている場合、1～3の活動は省略可。</p>			
<p>■ 《あめこんこん》を歌い、旋律を大まかにとらえさせる。</p>	<p>1. 《あめこんこん》を、動作をつけて歌う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「みんなは雪が降ってきたらどんな気持ちになるかな?」「これまでに雪が降ってきた時にどんな遊びをしたかな?」と問い、自由に発言させる。 ● 「そんな風に雪が降ってくるのを楽しみにしている福島県の子供達がかつて歌ってきた《あめこんこん》というわらべうたがあるので、一緒に歌ってみましょう」と誘い、歌詞を掲示し真似て歌うように誘う。慣れてきたら動作もつけて一緒に歌うように促す。 ● 拍にのって動作をするように促す。 ● わからない歌詞がないかを問う。 ● 歌詞の内容とかかわらせて、初雪が降ったときの経験を想起させ、子どもの生活と関連付けて説明する。 「初雪が降ると、みんなどんな気持ちになるかな?雪国の子供達みんなと同 	

■ 箏の基本的な奏法で《あめこんこん》の旋律を弾けるようにさせる。

■ オスティナートの振り返りをさせる。

■ カノンの重なりに気づかせる。

2. 《あめこんこん》の音を探して、ペアで交代しながら《あめこんこん》を弾く。



3. 《あめこんこん》にオスティナートを重ねて弾く。

4. 4拍ズレのカノンの重なりによる《あめこんこん》演奏に対して気づいたことを話し合い、歌って確認した後、4拍ズレのカノンで演奏する。



じように庭や道路に出て、空を見上げながらこの歌を歌ったそうです。」

● 「今度は、《あめこんこん》をお箏で弾きます。」と言って、五＝ミ、六＝ソ、七＝ラ、八＝シに調弦した箏を配る。

● 「さっき歌った《あめこんこん》の歌になるように音を探してみましよう。歌は七から始まります」と言って音探しさせる。

● 子どもに確認しながら、掲示した歌詞の横に絃の数字を貼っていく。

● 音探しに迷う場合があれば、音の高さを、手を上下させて確認させる。

● つくった数字譜を全体で共有し、歌って確認する。「お箏の音楽は、昔から絃の数字を縦に並べた楽譜を使って書かれているのです。」

● 爪をつけさせ、「しっかり弾き」を意識するように伝える。

● クラスを2つに分け、旋律役、オスティナート役を交代で演奏させる。

● 「今日は、先生がオスティナートとは少し違う弾き方をします。何か気づいたことがあったら教えてください。」と言って、指導者が子ども達の演奏から4拍ずらして《あめこんこん》の旋律を演奏する。

● 子どもの「ずれていた」発言をとらえて「まずは、歌って確認してみましよう」と言って、クラスを2つに分けて4拍ズレのカノンで歌う。

● 慣れてきたら、箏で交代しながら4拍ズレのカノンで重ねて演奏させる。

● 状況に応じて、団扇太鼓等を用いて拍をとる。

主体的に学習に取り組む態度①
(観察)

主体的に学習に取り組む態度①
(観察)

主体的に学習に取り組む

■拍のずらし方による感じの違いに気づかせる。

5. 2拍ズレのカノンの重なりによる《あめこんこん》演奏に対して気づいたことを話し合い、歌って確認した後、2拍ズレのカノンで演奏する。



- 子ども達が演奏できるようになったら、「先生がまた、さっきとは少し違う弾き方をします。何か気づいたことがあったら教えてください。」と言って、指導者が子ども達の演奏から2拍ずらして《あめこんこん》の旋律を演奏する。
- ずれ方の違いにかかわる発言をとらえて「こっちも、歌って確認してみましよう」と言って、クラスを2つに分けて2拍ズレのカノンで歌う。
- 状況に応じて、団扇太鼓等を用いて拍をとる。
- 慣れてきたら、箏で交代しながら2拍ズレのカノンで重ねて演奏させる。
- 先ほどの重ね方の時と、どんな風にイメージが変わったかについて話し合わせる。

む 態 度 ①
(観察)

分析 カノンの重なりを知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。

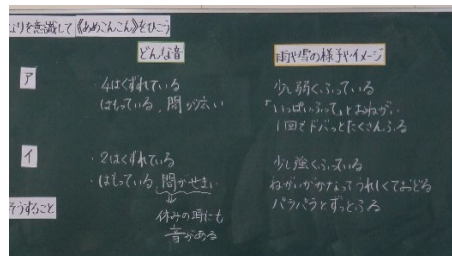
■カノンの重なりを知覚・感受させる。

6. (ア) と (イ) の《あめこんこん》を比較聴取し、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。

C: ズレ方が違う。
 C: (イ)は休みなく音が鳴っている。
 C: (ア)は一度にドサッと雪が降ったような感じで、(イ)はパラパラとずっと降っている感じ。

■知覚・感受した内容を共有させる。

7. ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。



●事前に録音しておいた(ア) 4拍ズレのカノンの《あめこんこん》と(イ) 2拍ズレのカノンの《あめこんこん》の演奏を聴かせる。

●(ア)(イ)に対する子どもの発言を、知覚したことと感受したことの対応関係がわかるように板書する。

●(ア)は4拍ズレだったのに対し、(イ)は旋律が2拍ズレで重なっていたことをイタリア語で「逃げる」という意味をもつ「カノン」という用語とかかわらせて確認する。

●(ア)(イ)にそれぞれ4拍ズレのカノン、2拍ズレのカノン、という用語として確認する。

思考・判断・表現①
(ワークシート)

<p>■イメージを表現するための手がかりを得させる。</p>	<p>8. イメージを意識して演奏した時に、どんなことに気を付けたかについて発表し合う。</p> <p>T:たとえば、2拍ズレのカノンの重なりは、雪や雨が休みなく降ってくる感じという意見が出ていましたね。では、もっと雪や雨が休みなく降ってくるような感じを出すためには、どんな弾き方をしたらいいかな?</p>	<p>●板書の中のイメージからわかりやすそうなものをピックアップし、演奏させる。</p> <p>●クラスを2つに分けて演奏させる。</p> <p>●演奏後にどんなことを意識して演奏したかについて発表させ、その工夫についてクラスで演奏して試してみる。</p>	
--------------------------------	---	--	--

再経験 カノンの重なりを意識して《あめこんこん》の表現を工夫する。

<p>■表現の工夫への手がかりを基に、自分たちのイメージに合った表現を工夫させる。</p>	<p>9. カノンの重なりによるイメージが表現できるように、ペアで重ねて演奏する。</p> 	<p>●ペアを組み合わせて1グループ（4人）にし、ペアで続けて演奏するように促す。</p> <p>●4人で表現したい雨や雪のイメージを共有させ、そのために、2拍ズレと4拍ズレのどちらの重なりにするか、さらに、それをどのように演奏するかを考えさせる。</p> <p>●ペアで続けて演奏するにあたって、途中で重ね方を変化させてもよいことを伝える。</p>	<p>★主体的に学習に取り組む態度②（観察）</p>
<p>■作品の交流を通してイメージを表現するための工夫に気づかせる。</p>	<p>10. 中間発表をする。</p> <p>C: 大粒の雨と雪がポタポタ降っているイメージで、そのために、4拍ズレにしました。</p> <p>T: どうぞ。</p> <p>C: ♪（演奏する）</p> <p>C: しっかり弾きで強く弾いているのが大粒の感じがした。</p> <p>C: ゆっくりなところがポタポタの感じが出ていた。</p> <p>T: なるほど、音の強弱や速度も工夫されていたのに気づいたのですね。発表班は意識していましたか？</p> <p>C: はい。</p> <p>T: では、伝わっていたのですね。拍手！今の班の工夫も参考に、自分たちの班の工夫を完成させましょう。</p>	<p>●工夫が顕著な班を1～2班抽出し、イメージを発表させてから演奏させる。</p> <p>●抽出班の発表を聴く際は、イメージを思い浮かべながら聴くように促す。</p> <p>●工夫されていた表現に気づかせ、状況に応じて全員でやっているように促す。</p>	<p>思考・判断・表現②（観察）</p>

<p>評価</p>	<p>リレー奏で発表する。 カノンの重なりについてのアセスメントシートを記入する。</p>
------------------	---

<p>■作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。</p>	<p>1 1. リレー奏で発表していく。 C: イメージは強い雨や雪からやさしい雨や雪です。そのために前半は2拍ズレ、後半は4拍ズレで弾きます。 T: どうぞ。 C: ♪ (演奏する) C: イメージがはっきり分かった。 T: どんなところから? C: 前半はしっかり強く演奏されていて、後半は弱くなった。 T: なるほど。だからはっきりとわかったんですね。拍手!</p>	<p>●状況に応じて、団扇太鼓等を用いて拍をとる。 ●イメージを発表させてから演奏させる。 ●発表を聴いて気づいた点や、工夫されていた点について話し合う。</p>	<p>★知識・技能① (演奏)</p>
<p>■カノンの重なりについての振り返りをさせる。</p>	<p>1 2. アセスメントシートに記入させる。</p>	<p>●班でイメージしたこと、そのためにどんな工夫をしたのかについて記入するように促す。 ●事前に録音しておいた (ア) 2拍ズレのカノンによる《ほたるこい》と (イ) 4拍ズレのカノンによる《ほたるこい》の演奏を聴かせる。</p>	<p>★思考・判断・表現② (アセスメントシート) ★知識・技能② (アセスメントシート)</p>

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考にしてている。



小島律子 (2015) 「プログラムⅡ-4 わらべうたをカノンにして弾こう」『義務教育 9 年間の和楽器合奏プログラム—生成の原理の立場から—』黎明書房, pp.38-39

参考文献

佐藤志美子 (1996) 「あめこんこん」『心育てのわらべうた』ひとなる書房, p.14

懸田弘調 (1991) 「雨こんこ雪こんこ」『福島のわらべ歌 日本わらべ歌全集 4 下』柳原書店, pp.154-155

ワークシート (カノン) の重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう
 4年 4組 番 名前 _____

	どんな音から？	雨や雪の様子やイメージ
(ア)	重なっているところと重なっていないところがある。4はくすれている。	大きいゆきか「弱いイメージ」 
(イ)	ほとんど二つの音が重なっている。2はくすれている。	たくさんあとからあとからふってくるイメージ。 

ワークシート (カノン) の重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう
 4年 4組 番 名前 _____

	どんな音から？	雨や雪の様子やイメージ
(ア)	重なっていて小さい音 4はくすれている。	雨や雪がポツポツと少しおち ふってくるイメージ。(ゆっくりと)
(イ)	あとから入ってくる音のスタートが早い。 2はくすれていた。	雨や雪が同じくらいたくさん おちている。

